

琉球大学学術リポジトリ

コロナ禍下における教師志望学生のキャリア発達支援：非対面式によるロールレタリングを導入して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2021-10-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡本, 泰弘, Okamoto, Yasuhiro メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/49851

コロナ禍下における教師志望学生のキャリア発達支援

—非対面式によるロールレタリングを導入して—

岡本 泰弘*

Career Development Support for Teacher Trainees under the COVID-19 Pandemic
—Introducing Role Lettering of Non-meeting System—

Yasuhiro OKAMOTO*

要 約

本研究では、コロナ禍下における教師志望学生に非対面式によるロールレタリングを導入し、教師志望学生のキャリア発達を促進する支援について検討した。大学の教職課程を履修する2年生を対象にWebClassを用いた非対面式によるロールレタリングを2か月間、週1回、合計8回（4往復）実施した。その結果、自尊感情尺度の上昇や非対面式によるロールレタリングの記述内容及び非対面式によるロールレタリング後の内省報告から、自己や他者に対する気づきにより、将来に対する目標の再確認や将来への意志決定が高まっていることが認められた。以上の結果から、コロナ禍下における教師志望学生に非対面式によるロールレタリングを導入することは、教師志望学生のキャリア発達を促進する支援として効果があることが示唆された。

キーワード ロールレタリング, キャリア発達, COVID-19, 教師教育

I. 問題と目的

2019年12月、「原因不明の肺炎」として、中国湖北省武漢市で発見された新型コロナウイルス（COVID-19）は、瞬く間に全世界に拡散し、今や世界では感染者数1億2,700万人、死亡者278万人（2021年3月30日現在）、日本でも感染者468,991人、死亡者9,064人（2021年3月30日現在）という深刻な状況となっている。日本では、2020年1月16日に国内で初めて感染者が確認され、3月中旬から急激に感染者が増大し、4月7日には埼玉、千葉、東京、神奈川、大阪、兵庫、福岡の7府県に、4月16日には、北海道、茨城、石川、岐阜、愛知、京都を加えた計13都道府県が新たに「特定警戒都道府県」として指定され、それ以外の34県についても人の移動を最小化することから、緊急事態措置を実施した。

本学が所在する沖縄県においても、県独自の緊急事態宣言が4月20日に発出され、本学も全学生及び教員に対して、原則、キャンパスへの立ち入り禁止となった。それに伴い、通常の対面授業は当面行わないとするオンラインやオンデマンド型の授業が導入されることになった。そのような状況の中で、教師志望学生においても、大学生活について多くの不安を抱え、現在、学んでいることを子どもたちのために活かす未来を描くことができなくなっていることと考えられる。

キャリア教育は、中央教育審議会答申（2011）によると、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」であり、キャリアとは、「人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で自らの役割の価値や人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割

* 琉球大学教育学部 教授

との関係を見出していく連なりや積み重ね」と定義されている。

このように、キャリア発達を促すには、学校や家庭、地域といったさまざまなコミュニティとの関わりの中で自らの役割を果たし、自らの力で人生を選択していける能力や態度を養っていくものである。しかしながら、コロナ感染拡大防止のもと、学生は、キャンパスに入れず慣れないオンライン授業やさまざまなイベントの中止、サークル活動の停止、アルバイトの解雇・雇い止めなど、物理的分断のみならず心理的分断が深まり、孤立感や絶望感から、将来の展望をもてる状態とはいえない現状にある。また、一向に新型コロナウイルスの収束の兆しが見えない現状の中、将来に対する不確実性や不安が高まり、これまで普通にできていた日常生活に対する喪失感も相まって、今後の人生に対して悲観的になる学生も少なくない。

そういった中、文部科学省は、2020年6月5日、新型コロナウイルス感染症が長期化し、不安を抱えている学生等が出てきていることから、「大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて（周知）」を発出し、学生への配慮と支援等として、電話やメール等を活用し、より学生が相談しやすい体制を構築し、困難や不安を抱えた学生等の目線に立った対応を求めものとなった。

このようなことから、コロナ禍下においてもキャリア発達を促進させるためには、人とのかわりやつながりを確認させながら、学生の非現実的な不安を取り除くとともに、現実を合理的に受け容れ、それを前向きに捉え、将来に対する意志決定を再確認させていく心理的支援が必要であると考える。

ロールレタリングとは、ゲシュタルト療法の空椅子の技法（エンプティチェア・テクニック）を応用し、矯正機関から生まれ、医療、福祉、学校教育で用いられている日本発祥の心理技法である。春口（1987）は、「ロールレタリングは、自らが自己と他者の両者の視点に立ち、手紙による往復書簡を重ねることで、相手の立場で自己を見つめ、その気づきから問題解決を促進させる技法である」と述べている。また、ありのままの感情と思考を文章で明確化させることで、自己の問題

性に気づき、さまざまな葛藤を乗り越え、自分自身を成長させていくことができる一種の自己カウンセリング法である。

ロールレタリングには、1. 文章による感情の明確化、2. 自己カウンセリング作用、3. 対決と受容、4. 自己と他者、双方からの視点の獲得、5. イメージ脱感作、6. 自己の非論理的・不合理的な思考に気づく、などの作用がある（春口、1995）。

これまでのロールレタリングによるキャリア教育に関する先行研究において、岡本（2019）は入学直後の大学1年生を対象に、キャリアカウンセリングにロールレタリングを3か月4往復実施した結果、自己理解を促進させ、自分の将来の生き方への関心を深め、自己実現への意欲を喚起できることを指摘している。佐瀬（2018）は大学生を対象に進路に焦点化したロールレタリングは、焦点化しないロールレタリングよりも、導入時より自己に注目しやすく、自己への気づきを得ることにつながりやすいことを明らかにしている。さらに、佐瀬（2016）は大学生を対象に「重要な他者」と「10年後の自分」のロールレタリングを行い、両者の効果の比較から、「10年後の自分」のテーマは「重要な他者」のテーマより自己の内面に向き合うことができるとし、一方、「重要な他者」のテーマは「10年後の自分」より、他者の存在や他者とのつながりを意識し、実感する効果が高いとし、自己についての気づきや肯定的思考を得ることができるロールレタリングはキャリア教育の導入に適していると報告している。中嶋・山本（2007）は、「就職後の自分」に手紙を書くロールレタリングを大学生に行い、進路への意欲が向上したことを報告している。以上、これらは大学生のキャリア教育に実施者がロールレタリングを、対面で行うカウンセリングと同様に実施したものであり、非対面式によるロールレタリング研究はまだ見られない。

そこで、本研究では、「コロナ禍下における教師志望学生を対象として、非対面式によるロールレタリングを導入することで、キャリア発達を促進する」という仮説を設定し、自尊感情尺度とロールレタリングの記述内容、ロールレタリング後の内省報告を用いて、コロナ禍下における教師志望

学生のキャリア発達支援について検討する。

II. 方法

1. 対象

本研究の対象は、沖縄県内の大学の教職課程を履修する2年生（実施群）15名（男性7名、女性8名）と（統制群）15名（男性6名、女性9名）を分析対象とした。実施群の大学生については、WebClassを用いて、非対面式によるロールレタリングを2か月間、週1回、合計8回（4往復）実施した。各回の非対面式によるロールレタリング後、振り返りや感想等を中心に、実施群各自とメールカウンセリングを行った。すべての被験者には当研究の趣旨を説明し、同意を得た後、施行した。実施者は、ロールレタリングの指導経験及び公認心理師の資格を有する筆者が担当した。

なお、当研究は役割交換書簡法・ロールレタリング学会の倫理委員会の承認を得ている。

2. 方法

(1) 手続き

以下の図1の手続きで実施した。

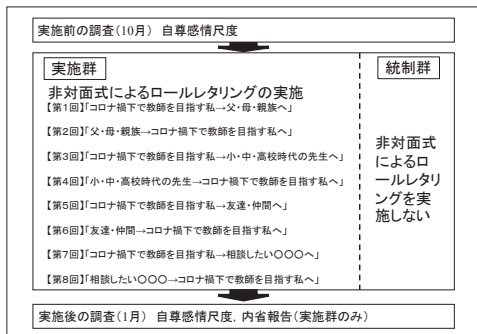


図1 実験スケジュール

施行前の調査は10月に実施し、自尊感情尺度を行った。施行後の調査は2か月間（11～12月）、非対面式によるロールレタリングを計8回（4往復）行ったところで1月に実施した。施行前と同様に、自尊感情尺度を行った。さらに、計8回（4往復）の非対面式によるロールレタリングの記述内容や非対面式によるロールレタリング後の内省報告から効果を検証することにした。非対面式によるロールレタリングのテーマは、コロナ禍においても、教師志望学生が他者との関わり意識で

きるように、教師としてのキャリア発達を支援するために、「コロナ禍で教師をめざす私」から、「父・母・親族へ」「小・中・高校時代の先生へ」「友達・仲間へ」「相談したい〇〇〇へ」とし、教師をめざす自分自身に心理的つながりを想起させるものとした。

(2) 効果の測定（査定）

本研究では、コロナ禍における教師志望学生のキャリア発達支援における非対面式によるロールレタリングの効果を検証するために、自尊感情尺度、非対面式によるロールレタリングの記述内容、非対面式によるロールレタリング後の内省報告によって効果の測定を行った。

① 自尊感情尺度

自己の能力や価値について評価的な感情や感覚の変化を測定するために、Rosenberg (1965) が作成した自尊感情尺度の山本・松井・山城 (1982) を使用した。これは10項目から成り、「あてはまらない（1点）」から「あてはまる（5点）」の5段階で評定を求めるものである。得点可能範囲は、10点～50点であり、得点が高いほど自尊感情が高いものとした。喜多・西條 (2012) は、キャリア教育では自己理解を促し、自分らしい生き方を考えさせることを目的の一つとし、これからの生き方を前向きにとらえさせる自尊感情の重要性を指摘しており、本研究では、学生のキャリア発達を測定する尺度とした。

② 非対面式によるロールレタリングの記述内容

自尊感情尺度の得点の変化量が大きかった学生と小さかった学生を抽出し、非対面式によるロールレタリングの記述内容により、コロナ禍における不安や思い、ストレス等の自己表出や不自由なコロナ禍下の現実を受け入れ、将来の目標に向かって生きる意欲や意志など、教師志望学生のキャリア発達の変容を測定した。

③ 非対面式によるロールレタリングの記述内容

自尊感情尺度の得点の変化量が大きかった学生と小さかった学生を抽出し、非対面式によるロールレタリング後の内省報告により、自己及び他者など様々な気づきから、教師志望学生のキャリア発達支援の効果を総合的に測定した。

表1 ロールレタリング実施学生と非実施学生の自尊感情尺度の得点の平均値(SD)及び分散分析結果(F値)

	ロールレタリング実施学生 (n=18)		非実施学生 (n=14)		群 F値	時期 F値	交互作用 F値
	実施前(10月)	実施後(1月)	実施前(10月)	実施後(1月)			
自尊感情尺度	28.50 (5.48)	32.28 (7.00)	29.29 (6.43)	30.43 (7.38)	0.05	14.64****	4.20*

+ ; p<.10, * ; p<.05, ** ; p<.01, *** ; p<.005, **** ; p<.001

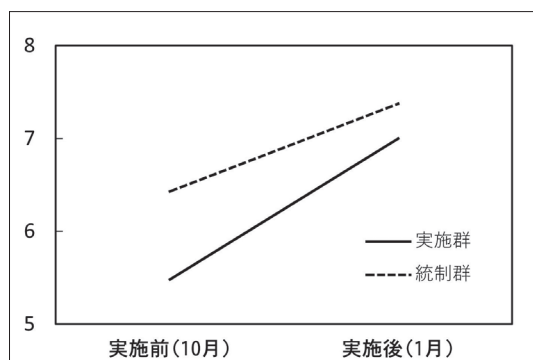


図2 自尊感情尺度の平均得点

III. 結果

1. 自尊感情尺度の得点変化

表1は、実施前(10月)、実施後(1月)の自尊感情尺度の得点の平均値と標準偏差、及び各群と測定時期を要因とした群(実施群・統制群)×時期(実施前・実施後)の2要因の分散分析を行った結果である。また、図2は、実施前(10月)、実施後(1月)の自尊感情尺度の得点の平均値である。群×時期の交互作用が有意であり($F=(1, 30)=4.20, p<.05$)、群と時期の交互作用における単純主効果では、実施群における時期の主効果は優位に上昇した($F=(1, 30)=17.25, p<.001$)。なお、統制群については、時期の主効果は有意ではなかった($F=(1, 30)=1.58, ns$)。

2. 非対面式によるロールレタリングの記述内容

自尊感情尺度の得点の変化量が実施前と実施後で最大で10点上昇した学生が2人いた。そのうち1人を抽出生Aとした。一方、最小は-2点下降した学生が1人で抽出生Bとした。

表2は、抽出生Aの「コロナ禍で教師を目指す

私→母へ」の非対面式によるロールレタリングの記述内容である。コロナによる自粛等によりストレスが溜まり、将来、教師になることを見失いかけていることやコロナ禍下でも母親への感謝と健康への気遣いの記述が見られた。

表2 抽出生Aの「コロナ禍で教師を目指す私→母へ」のロールレタリングの記述内容

もう、コロナはうんざり。大学生生活もほとんどオンライン授業で、レポート課題も多いし、ストレスがたまる一方。やる気もでないよ。世界中、コロナで大変なのはわかるけど、自粛がいつまで続くのかな。私も本当に教師になりたいのか、わからなくなったよ。でも、お母さんはいつも頑張っているよね。私たちのために一生懸命働いているお母さんを尊敬するよ。身体には十分気をつけてね。特にコロナには沖縄は観光客も多いしね・・・。

表3は、抽出生Aの「母→コロナ禍で教師を目指す私へ」の非対面式によるロールレタリングの記述内容である。母親の立場で将来の進路を再確認するとともに、自己を励ます記述が見られた。

表3 抽出生Aの「母→コロナ禍で教師を目指す私へ」のロールレタリングの記述内容

心配してくれてありがとう。お母さんは、〇〇ちゃんが小学校の教師になるために、しっかり勉強してくれればそれだけで嬉しいよ。〇〇ちゃんは小さい頃から小学校の先生になることが夢だったじゃない。今はコロナで大変だけどしっかり自分の夢を叶えるために、頑張ってるね。今はガマンの時だよ。お母さんは、〇〇ちゃんをいつでも応援しているから。

表4は、抽出生Bの「コロナ禍で教師を目指す私→母へ」の非対面式によるロールレタリングの記述内容である。初めての非対面式によるロールレタリングで、率直にあまり書けないことや文末には儀礼的ともとれる記述が見られた。

表4 抽出生Bの「コロナ禍で教師を目指す私→母へ」のロールレタリングの記述内容

お母さん言いたいことはあまりありません。けんかしたときはいろいろ言いたいけど、今はないです。どんなことを書けば良いのか、正直思いつかびません。とにかくコロナにはお互い気をつけましょう。

表5は、抽出生Bの「母→コロナ禍で教師を目指す私へ」の非対面式によるロールレタリングの記述内容である。母親の立場から、自分自身の自己表出を促し、自己を思いやる記述が見られた。

表5 抽出生Bの「母→コロナ禍で教師を目指す私へ」のロールレタリングの記述内容

もっとお母さんにいろいろと話をしてくれていいですよ。あなたは言いたいことを言わず我慢するタイプだから、遠慮しないでどんどん言っているのよ。大学はどうですか？いつも大変そうだけど、単位は取れていますか？お母さんはいつも気になっていますよ。

表6は、抽出生Aの「コロナ禍で教師を目指す私→小・中・高校時代の先生へ」の非対面式によるロールレタリングの記述内容である。教師を目指すきっかけとなった小学校時の学級担任に対して、コロナ禍での現状の不安と今後、教育実習に行けるかどうかといった将来の不安に対する記述が見られた。

表6 抽出生Aの「コロナ禍で教師を目指す私→小・中・高校時代の先生へ」のロールレタリングの記述内容

〇〇先生、お元気ですか？コロナで沖縄は心配ですね。先生も感染には気をつけてください。児童たちは感染していても無症状だったりするようです。私たちは大学でリモート授業です。小学校は感染対策を徹底して授業をやっているのですか？小学校の頃がとても懐かしいです。私は〇〇先生が担任でとても良かったし、〇〇先生と出会って小学校の教師を目指すようになりました。最近はこのコロナで私たちは教育実習なんて行けるのかなとも思っています。今年の先輩は無理だったみたいです。正直、これからが不安になるときがあります。コロナが落ち着いたら、〇〇先生の小学校に遊びに来たい気分になりました。良いですか？これからも元気に頑張ってください。

表7は、抽出生Aの「小・中・高校時代の先生→コロナ禍で教師を目指す私へ」の非対面式によるロールレタリングの記述内容である。小学校時の学級担任の立場で、前回書いた内容に対して返信をするかたちで、現在の小学校のコロナ感染症の予防への対応や、教師として小学校時の学級担任と共に働こうという教師志望の意欲が見られる記述であった。

表7 抽出生Aの「小・中・高校時代の先生→コロナ禍で教師を目指す私へ」のロールレタリングの記述内容

〇〇さんこそ、元気ですか？先生は元気に頑張っています。学校は〇〇さんが言うようにコロナの感染対策でかなり大変です。学校行事も中止や縮小され、子どもたちがかわいそうです。〇〇さんの大学はどうですか？〇〇さんが教育実習に行く頃はコロナが少しは落ち着いているといいですね。〇〇さんが教師になるきっかけが先生と知り、とても嬉しいです。ぜひ、子どもたちの気持ち分かる良い教師になってください。今年は成人式ですね。成人式は行きますか？もし、出席するのなら、そこでみんなと会えれば楽しいですね。今はコロナでいろいろ大変だけど、小学校教師を目指し頑張ってください。将来、先生と一緒に働けたら良いですね。

表8は、抽出生Bの「コロナ禍で教師を目指す私→小・中・高校時代の先生へ」の非対面式によるロールレタリングの記述内容である。高校時の先生に対して、現在のコロナ禍と全く異なる環境下で楽しい思い出と当時の寛容な先生の態度に対する感謝の記述が見られた。

表8 抽出生Bの「コロナ禍で教師を目指す私→小・中・高校時代の先生へ」のロールレタリングの記述内容

高校生の頃が懐かしいです。また、あの頃に戻りたいなあと思います。あの時は全くコロナも無かったので、今と違って自由でとても楽しかったです。特に体育祭なんか最高でした。先生にはとても感謝しています。先生はいじられキャラだったけど、私たちクラスみんなのことをよく考えてくれていました。先生、いじってすみませんでした。また、みんなで会いたいですね。

表9は、抽出生Bの「小・中・高校時代の先生→コロナ禍下で教師を目指す私へ」の非対面式によるロールレタリングの記述内容である。高校時代の先生の立場で、体育祭や文化祭などの学校行事を懐かしむとともに、高校時、物静かであったという表現で、大学では周りに馴染めているかどうか自分自身に問う記述が見られた。

表9 抽出生Bの「小・中・高校時代の先生→コロナ禍下で教師を目指す私へ」のロールレタリングの記述内容

先生はみんなと1年間だったけど、とても楽しかったですよ。いじられながらも悪い気はしなかったよ。体育祭や文化祭など、学校行事はとても楽しかったですね。○○さんもそう思ってくれていたのですね。○○さんは物静かだったけど、大学ではどうですか？大学でも楽しくやっていますか？また、みんなと会えたら嬉しいですね。

3. 非対面式によるロールレタリングの後の内省報告

非対面式によるロールレタリングの記述内容と同様に、自尊感情尺度の得点の変化量が最大の学生を抽出生Aとし、最小の学生を抽出生Bとして、検討を行った。

表10は、抽出生Aの非対面式によるロールレタリング後の内省報告である。抽出生Aは、コロナ禍下にあるさまざまな不安を8回の非対面式によ

表10 抽出生Aのロールレタリング後の内省報告

今回の8回のロールレタリングでとても気持ち落ち着き、教師という将来の夢を確認できたと思います。コロナのことで私自身、今の世の中の動きと同じように、心がパニック状態におちいっていたからだと思います。事実、今年の先輩方は教育実習が制限されたり、私たちの授業もほとんどがリモートだったりして、とても不安だったのは間違いありません。でも、このロールレタリングでいろいろな立場で現在の自分を見つめることで、多くの人から支えてもらっているのを感じ、不思議と教師になるという気持ちが強くなりました。特に、小学校の先生にロールレタリングをした時、もう7～8年くらい会っていないのにスラスラ書けました。返信を書いた後、その先生から「頑張れよ!!」と背中を押されている感じになりました。私が教師になったら、子どもたちにロールレタリングしてみたいと思いました。

るロールレタリングで心の安定を取り戻し、教師という自分の将来の夢を再確認するとともに、自分自身を勇気づけ、自分が教師になった際は、ロールレタリングを子どもたちに実践したいと述べていた。

表11は、抽出生Bの非対面式によるロールレタリング後の内省報告である。抽出生Bは、非対面式によるロールレタリングを最初はうまく書けず、後になって書けるようになったとしており、他者に対する気づきの浅さを述べていた。また、抽出生Aと同様に、非対面式によるロールレタリングにより、教師志望が明確になったと述べていた。

表11 抽出生Bのロールレタリング後の内省報告

ロールレタリングは私にとって、とても難しかったです。私は普段、家族にも遠慮して自分が思うことをなかなか言わないことが多いので、ロールレタリングでも、あまり書くことができませんでした。そんな私ですが、後からだんだん書けるようになってきたので、もう少し行えば慣れるのかなとも感じました。今回、ロールレタリングをしてみて、私は日頃、他の人のことをあまり考えていないのかなということに気づきました。ただ、このロールレタリングをすることで、私が教師をめざしていることが明らかになったような気がします。どうもありがとうございました。

IV. 考 察

本研究では、コロナ禍下における教師志望学生を対象に、非対面式によるロールレタリングによるキャリア発達支援を究明することを目的とした。その効果検証を自尊感情尺度と非対面式によるロールレタリングの記述、非対面式によるロールレタリング後の内省報告を用いて行った。

自尊感情尺度については、非対面式によるロールレタリングを実施した教師志望学生は有意に上昇した。これまで、ロールレタリングでは、岡本(2019)、浜口(2014)、中嶋・山本(2007)、井頭・松岡(2006)、岡本(2006)、三星(2006)、下村(2001)による研究からロールレタリングが自尊感情の自我状態に影響することが報告されている。本研究は非対面式によるロールレタリングであったが、通常、対面を実施するロールレタリングと同様な結果が得られた。非対面式によるロールレタリング

においても、それぞれのテーマとなる他者に対して、現在や将来への不安や思いを自由に吐き出し、それらを他者の立場で受け入れ、支持することで、結果的に自己評価を高め、自尊感情の変容に働いたものと考えられる。

非対面式によるロールレタリングの記述内容については、自尊感情尺度の得点の変化量が大きかった抽出生Aは、4往復の非対面式のロールレタリングにより、テーマであるそれぞれの他者に対して、現在や将来に対する不安や思いを思いっきり訴えることで、ストレスを発散させていた。また、教師を目指すきっかけとなった小学校時の先生との往復書簡により、自分の将来の夢を再確認し、その夢を達成させるために自分を励ます内容を記述していたことから、将来への意志決定が高まったものと思われる。一方、自尊感情尺度の変化量が小さかった抽出生Bは、非対面式によるロールレタリングの記述量が少なく、コロナ禍前前の感染防止対策などが無い、不自由ない環境を懐古するだけにとどまり、現在の状況を受け入れて将来の夢である教師についての記述は見られなかった。また、非対面式によるロールレタリング後の内省報告では、「教師を目指していることを確認できた」としており、将来のことは意識していたにもかかわらず、非対面式によるロールレタリングの記述には至っていないことから、一種の心理的防衛が働いたとも思われる。

非対面式によるロールレタリング後の内省報告では、自尊感情尺度の得点の変化量が大きかった抽出生Aは、非対面式によるロールレタリングで、コロナ禍下でパニックに陥っていた自分の心を安定させ、非対面式のロールレタリングで各々のテーマに設定した他者から支えられ、つながりを感じるといった他者への気づきから、将来の夢である教師志望への意志決定が高まったものと思われる。他方、自尊感情尺度の変化量が小さかった抽出生Bは、自己を客観視し、周りに対して自己開示が苦手な自分に気づききっかけとなったと考えられる。また、抽出生Aはと同様に、教師志望については、再確認できているものの、意志決定を高めるまでは至っておらず、内省報告の記述から「もう少し行えば慣れるのかな」と述べており、回を重ねていくごとに非対面式によるロール

レタリングの記述量も増えていることから、さらに、非対面式によるロールレタリングを継続させることで、自己への気づきから他者への気づきと進み、効果が高まることも考えられる。

以上のことから本研究では、コロナ禍下における教師志望学生に対して、非対面式によるロールレタリングを導入することで、コロナ感染症による不安やストレスを軽減させるとともに、自尊感情を向上させ、さらには、将来の夢を再確認させることができ、将来の意志決定を強固にしていくことが明らかになった。

なお、本研究の課題として、3点挙げることにする。

第1に、今回はWebClass上による非対面式のロールレタリングの実施であったため、実施者である筆者と被験者によるラポール形成がされていたとは言い難い。非対面式によるロールレタリング後、振り返りや感想等を中心に、実施者の学生各自とメールカウンセリングを行っていたが、抽出生Bのように、自己開示に抵抗がある学生には限界があった。本研究に導入した非対面式によるロールレタリングのみならず、心理技法全般に言えることだが、ラポール形成が重要であり、非対面式であればなおさらのことである。本研究ではラポールを形成するために、導入オリエンテーションは対面で実施したが、十分とは言えなかったため、Zoomを用いて表情をお互いに確認しながらの面接と併用させていく方法も今後検討していきたい。

第2に、本研究では、集団を対象に実施した研究であったため、各回のテーマを統一したものとした。抽出生Bはなかなか自己の思いや考えを表出できなかったことから、書きやすい相手や書きたい相手をテーマにするなど、個別にテーマを設定したほうがよかったかもしれない。今後、コロナ禍下における支援として、一人一人のニーズに応じてきめ細かな対応をしていくために、個を対象にした非対面式によるロールレタリングを検討していく必要がある。

第3に、本研究では、学生のキャリア発達の変容を客観的に測定する尺度として自尊感情尺度を使用した。キャリア発達は、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現し

ていく過程」(中央教育審議会, 2011)であり, キャリア教育で育成する「基礎的・汎用的能力」(人間関係形成・社会形成能力, 自己理解・自己管理能力, 課題対応能力, キャリアプランニング能力)と関連させた客観的データを得る尺度を検討していききたい。

最後に, 本研究はコロナ禍下における教師志望学生のキャリア発達を促す支援について検討を行ったが, コロナ感染症の拡大が未だ収まらず不確実性が続き, 将来の希望が見えにくくなっている現状から, ますますキャリア教育が重要になってくるものと考え。また, 人々の不安も慢性化しており, 教師志望学生のみならず, 一般学生に応用できるコロナ禍下における自己内カウンセリングとして, 非対面式によるロールレタリングの可能性についても研究を進めていきたい。

引用文献

- 中央教育審議会 2011 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)
- 浜口恵子 2014 中学生の自尊感情へのロールレタリングによるアプローチ 創価大学大学院紀要, 36, 361-383
- 春口徳雄 1987 ロールレタリングの臨床からの観察 杉田峰康(監修)・春口徳雄(編) ロールレタリング入門 創元社
- 春口徳雄 1995 ロールレタリングの理論的基盤 杉田峰康(監修)・春口徳雄(編) ロールレタリングの理論と実際 チーム医療
- 井頭久子・松岡洋一 2006 ロールレタリングによる母親の子育て支援 ロールレタリング研究, 6, 27-41
- 喜多泰子・西條秀俊 2012 MBTI®を活用した大学生の自尊感情の醸成に関する研究 J-APT学会論文集, 1-16
- 三星喬史 2006 教師の自己肯定感を高めるロールレタリングの一試論 ロールレタリング研究, 6, 63-72
- 文部科学省 2020 大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて(周知)
- 中嶋渥・山本真理子 2007 「就職後の自分」を用いたロールレタリングが大学生の進路不決断と自尊感情に及ぼす影響 久留米大学心理学研究, 6, 75-79
- 岡本泰弘 2006 生徒のメンタルヘルスを促進するロールレタリングー中学校学級経営への導入を通してー ロールレタリング研究, 6, 43-52
- 岡本泰弘 2019 ロールレタリングによるキャリア教育・進路指導支援の一方途ーキャリアカウンセリングに導入してー 役割交換書簡法・ロールレタリング研究, 2, 12-18
- Rosenberg, M. 1965 Society and adolescent self-image. Princeton Univ. Press.
- 佐瀬竜一 2016 ロールレタリングを用いた大学生を対象にしたキャリア教育の試み 常葉大学教育学部紀要, 36, 201-212
- 佐瀬竜一 2018 進路について考えるロールレタリングが大学生の心理状態に及ぼす影響 役割交換書簡法・ロールレタリング研究, 1, 67-79
- 下村明子 2001 看護教育におけるロールレタリングを用いた実践ー自尊感情の低い学生に対する患者理解のアプローチー ロールレタリング研究, 1, 49-58
- 山本真理子・松井豊・山城由紀子 1982 認知された自己の構造 教育心理学研究, 30, 64-68